



土井晩翠、島崎藤村、真山青果、魯迅……仙台は多くの文学者を受け入れ、育て、作品を生み出す力を与えてきた地。まちの中にはさまざまなかつての文学的な出来事が眠っています。もしかしたら、魯迅が通った道を今あなたが歩いているかもしれないし、あなたの立っているところで藤村が詩の構想を練ったかもしれない……

井上 ひさし (仙台文学館 初代館長)



せんだい 文学マップ

仙台文学館

もくじ

仙台文学館周辺マップ
 扇畑忠雄歌碑・海鏡義美音楽碑・
 エドモンド・プランアン詩碑……………3・4

仙台文学館へようこそ……………5

1 島崎藤村の下宿・三浦屋跡……………6
 2 天江富弥詩碑・スズキヘキ詩碑……………6
 3 瑞雲寺……………7
 4 東北学院史資料センター……………7
 5 石川通助詩碑……………8
 6 阿部次郎記念館……………8
 7 山田孝雄・山田みづえ句碑……………9
 8 東洋館……………9
 9 東北大学史料館・第二高等学校片平記念苑……………10
 10 乃木希典旧宅跡……………10
 11 米ヶ袋一丁目公園(魯迅の下宿跡)……………11
 12 晚翠草堂……………11
 13 日本聖公会仙台基督教教会……………12
 14 相馬黒光生家跡・尾形龜之助旧宅跡……………12
 15 浜夢助川柳碑……………12
 16 遠藤穂送句碑……………13
 17 魯迅顕彰碑と魯迅像・阿部次郎句碑……………13
 18 土井晩翠詩碑……………14
 19 木俣修歌碑・斎藤茂吉歌碑……………14
 20 三太郎の小径……………14
 21 木下幸太郎詩碑……………15
 22 キリスト教共同墓地……………15
 23 高山樗牛「観想の松」・土井晩翠歌碑……………16
 24 天江富弥詩碑・スズキヘキ詩碑・野口雨情詩碑……………16-17
 25 阿部みどり女句碑……………17
 26 原阿佐緒歌碑……………18
 27 スズキヘキ詩碑……………18
 28 真山青果文学碑……………18
 29 夏目漱石文学碑……………19
 30 土井晩翠歌碑……………19

仙台市中心部マップ……………20-21-22
 仙台市近郊マップ……………23

仙台文学館

交通のご案内



バスでのアクセス

仙台駅前から約30分。「北根二丁目・文学館前」下車後、徒歩約5分。
 西口バスプール2・3・4番のりばから出る宮城交通バス(紅の丘部地行き、宮城大学行きなど)・仙台市営バス(ひび女駅行き)にご乗車ください。※北根トンネル経由は除く

お車でのアクセス

駐車場は40台分ご用意しております。満車の場合、近所には駐車場がございませんのでご注意ください。

地下鉄でのアクセス

地下鉄台原駅で下車後、台原森林公園内を徒歩で約30分。または台原駅からタクシーで約5分。台原森林公園や当館敷地内の遊歩道は、山道で高低差も多く、雨天時など足元が大変悪く危険になります。雨天時のご来館の際は、バスのご利用をおすすめいたします。

仙台
文学館

ことばの
杜を
あるこう

(公財)仙台市民文化事業団
仙台文学館

〒981-0902
 仙台市青葉区北根2-7-1
 TEL.022-271-3020
 FAX.022-271-3044
<https://www.sendai-lit.jp/>

写真：佐々木隆二 2022.12

仙台文学館 周辺マップ



扇畑忠雄歌碑

扇畑忠雄の生誕百周年を記念して、平成23年に東北アララギ会により建立された。

雪の原青々と翳る時のあり
いづこともなき
北のふるさと(忠雄)

●扇畑忠雄(おうぎはた・ただお)

明治44(1911)年～平成17(2005)年 中田旅順生まれ、歌人、国文学者。旧制広島一中在学中に短歌を始め、『アララギ』に拠り中村憲吉・土屋文明に師事。旧制二高、東北大学の教壇に立ちながら、昭和21年に東北アララギ会を結成して歌誌『群山』を創刊し、東北歌壇を牽引し続けた。

海鋒義美音楽碑

平成11年に建立された碑には、冨田博作詞、海鋒義美作曲の合唱曲「春の足あと」の楽譜が刻まれている。この曲は、戦後間もなくラジオ番組「東北うたの本」で放送され、教科書にも採択された。

●海鋒義美(かいほこ・よしみ)

明治38(1905)年～平成9(1997)年 山形県生まれ、作曲家、音楽教育家。宮城の音楽教育に尽力したほか、校歌や「春の足あと」などの子どもの歌を多数作曲した。

●冨田博(とみた・ひろし)

大正8(1919)年～平成26(2014)年 仙台市生まれ、児童文学者、教育者。宮城県内の小・中学校の教壇に立ちながら、児童文学者の久留島武彦を師と仰ぎ口演筆話の活動を続ける。校歌の作詞やラジオ番組の脚本を数多く手掛けたほか、「おてんとさんの会」会長をつとめるなど、長く宮城の児童文化活動を指導した。

エドモンド・ブランデン詩碑

昭和23年に仙台の青木ホテルに投宿したブランデンが、滞在を記念して青木ホテル社長に贈った詩の詩碑。後に仙台市に寄贈され、平成14年に仙台文学館に移設された。

Sendai

To Mr. S. Aoki Edmund C. Blunden
What do you look for in a city? Things
Reminding us of ancient fame, of Kings
And emperors in full magnificence?...

●エドモンド・ブランデン

明治29(1896)年～昭和49(1974)年 ロンドン生まれ、詩人、文芸評論家。第一次大戦の従軍体験を元にした作品で知られる。大正13年から昭和2年にかけて東京帝大で英文学を教え、戦後は英団の文化使節として日本各地を訪れている。

仙台文学館へようこそ

仙台文学館の敷地面積は約63,000m²。敷地全体が、奥に連なる台原森林公園の入口の一つとなっています。展示をご覧いただくだけでなく、緑豊かな広々とした敷地の散策もお楽しみいただけます。



常設展示室 ■ 土井鞆翠・島崎藤村・色迅など明治以降の郷土ゆかりの文学者をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家たちの足跡とその資料を紹介しています。

企画展示室 ■ 郷土の文学や作家のみならず広く文学をテーマとした企画展を開催します。

講習室 ■ 文学館が主催する講座・講演会などの催しに使用するほか、一般の方にも有料で貸し出しています。

情報コーナー ■ 当館所蔵の資料の閲覧と調査ができる場所です。

交流コーナー ■ 打ち合わせやくつろぎの場としてお使いいただけます。

カフェ ひざしの社 ■ 台原森林公園の自然を眺めながら、パスタやカレーなどの食事、スイーツ、こだわりのコーヒーなどをお楽しみいただけます。

●営業時間 10時～16時(ランチタイム10時～14時)
電話 022-219-1341



1 島崎藤村の下宿・三浦屋跡

宮城野区名掛丁(仙台駅東口)

島崎藤村は、明治30年7月に仙台を離れるまでの最後の数ヶ月を、三浦屋で過ごし、ここで書いた詩の多くが、『若菜集』に収められた。現在藤村ゆかりの地として、「日本近代詩発祥の地」碑ほか、「草枕」詩碑、荒浜の地で津波の被害を乗り越えた「潮音」詩碑を見ることが出来る。



「潮音」詩碑



「日本近代詩発祥の地」碑



「草枕」詩碑

荒浜の春の潮音
湧きて流る、八百潮の
そこにいざよう 海の琴…

心のやとのみやき野上
乱れて熱きわか身には
日かけもうすぐ草枯れて
荒れたる野こそうれしけれ…

●島崎藤村(しまざき・とうそん)

明治5(1872)年～昭和18(1943)年 馬籠(現・岐阜県)生まれ、詩人・小説家。明治29年に、英語と作文の教師として東北学院に赴任し、10ヶ月程滞在した。翌年『若菜集』を発表。『破戒』『夜明け前』など、日本の近代文学史に残る数々の傑作を残した。

2 天江富弥詩碑・スズキヘキ詩碑

若林区新寺5丁目1-1(林香院)

天江富弥の詩碑のそばに寄り添うように建てられたスズキヘキの碑がある。

なんばになっても
母の夢(富弥)
よう(ヘキ)



●天江富弥(あまえ・とみや)

明治32(1899)年～昭和59(1984)年 仙台市生まれ、郷土研究家。郷土の童謡をはじめ、郷土弁言やこけし収集など幅広い文化運動を繰り広げた。スズキヘキと日本最初の童謡専門誌『おてんとさん』を創刊した。

●スズキヘキ

明治32(1899)年～昭和48(1973)年 山形県生まれ、詩人。雑誌『赤い嵐』に影響を受け、童謡を書き始める。郷土のこたばを大事にした童謡や詩を作りつづけた。

3 瑞雲寺

若林区連坊2丁目1-10

富永太郎と芝不器男が学生時代に下宿した寺。敷地内に不器男の句碑がある。

●富永太郎(とみなが・たろう)

明治34(1901)年～大正14(1925)年 東京都生まれ、詩人。大正8年に旧制二高理科に入学、在学中から詩作や油絵を始める。ランボーやボードレールに傾倒し、中原中也にも大きな影響を与えた。

●芝不器男(しば・ふきお)

明治36(1903)年～昭和5(1930)年 愛媛県生まれ、俳人。大正14年に東北帝大工学部に入学し、この頃から俳句に熱中する。高浜虚子にその才を認められるが、惜しくも夭折した。

あなたなる
夜雨の葛のあなたかな



4 東北学院史資料センター(ラーハウザー記念東北学院礼拝堂地下)

青葉区土樋1丁目3-1 TEL.264-6538

明治19年に仙台神学校として開校した東北学院は、キリスト教の精神に基づく幅広い人間教育を目指した。島崎藤村が教壇に立ったほか、岩野泡鳴、押川春浪、山川丙三郎などが学んでいる。史資料センターでは学校の歴史と、創設者たちの偉業を顕彰している。



写真提供：学校法人 東北学院

※開館日時はお問合せの上、ご来訪ください。

●岩野泡鳴(いわの・ほうめい)

明治6(1873)年～大正9(1920)年 兵庫県生まれ、詩人・小説家。明治24年に東北学院に入学し、学内雑誌に創作や評論を執筆。著者の『神秘的半獣主義』では、仙台時代を回想している。

●押川春浪(おしかわ・しゅんろう)

明治9(1876)年～大正3(1914)年 愛媛県生まれ、小説家。父・方義は東北学院の創設者であり、自らも同校に学ぶ。明治33年に発表した冒険小説『海底軍艦』で少年少女の絶大な支持を得た。

●山川丙三郎(やまかわ・へいざぶろう)

明治9(1876)年～昭和22(1947)年 新潟県生まれ、英文学者。東北学院に学び、アメリカに留学。ダンテに傾倒し、生涯を賭けて『神曲』の翻訳に取り組んだ。

5 石川善助詩碑

太白区向山4丁目17-1 (愛宕神社)



光の薫む
切り通しのなかに
童子が化石を捜してゐた…

●石川善助(いしかわ・ぜんすけ)
明治34(1901)年～昭和7(1932)年 仙台市生まれ、詩人。
高校時代から詩作を始め、草野心平らと交友する。詩のほか童謡・童話などを残したが、31歳で夭折した。

6 阿部次郎記念館

青葉区米ヶ袋3丁目4-29 TEL.267-3284



阿部次郎が私財を投じた日本文化研究所(昭和29年創設)の建物を改築・補修し、平成11年に開館した。阿部の著作や書簡、書画などを展示し、その業績を顕彰している。

※開館日時はお問合せの上、ご来訪ください。

●阿部次郎(あべ・じろう)
明治16(1883)年～昭和34(1959)年 山形県生まれ、哲学者。
大正12年に東北帝大の教授として赴任し、美学の講座を担当する。『三太郎の日記』は青春の書として、多くの若者達の支持を得た。



7 山田孝雄・山田みづえ句碑

青葉区米ヶ袋3丁目4-29 (阿部次郎記念館隣)



山田孝雄は阿部次郎の招きで日本文化研究所の顧問となり、同敷地に旧宅も構えて晩年を過ごした。東北帝大の僚友であった二人の友情を記念して、平成13年に孝雄・みづえの親子句碑が建立された。

連ね歌の花咲きにけり道の奥(孝雄)
風花す父のやさしさ極まれば(みづえ)

●山田孝雄(やまだ・よしお)

明治8(1875)年～昭和33(1958)年 富山県生まれ、国語学者。大正末から昭和初期まで東北帝大に在任する。文法研究の大家として知られ、また『古事記』『万葉集』などの古典文学に関する著作も多い。

●山田みづえ

大正15(1926)年～平成25(2013)年 仙台市生まれ、俳人。山田孝雄の次女。石田波郷に師事し、角川俳句賞、俳人協会賞を受賞。俳誌『木語』を主宰。

8 東洋館

太白区向山1丁目1-16 TEL.222-7019

現在も続く老舗の料亭。大正末から終戦ごろまで、東北帝大の教授たちが毎月この料亭で俳語の研究会などの会合をもち、その交流を深めた。



9 東北大学史料館・第二高等学校片平記念苑

青葉区片平2丁目1-1 TEL.217-5040

明治40年に創設された東北帝大には、阿部次郎・小宮豊隆などの若き教授たちが集まり、自由で闊達な気風を作った。史料館では、大学の歴史や集った人々に関する資料を保存、公開している。また正門近くにある第二高等学校片平記念苑には、土井晩翠が作詞した旧制第二高等学校歌碑がある。なお川内キャンパスの附属図書館には、夏目漱石の蔵書及び関連資料が一括して整理された「漱石文庫」がある。

※開館日時はお問合せの上、ご来訪ください。



写真提供：東北大学史料館



●土井晩翠(どい・ばんすい)

明治4(1871)年～昭和27(1952)年 仙台市生まれ、詩人・英文学者。明治32年に詩集『天地有情』を刊行、藤村と並び脚光を浴びた。その後旧制二高教授に着任し、仙台で幅広い文学活動を展開した。晩翠作詞の「荒城の月」は今も愛唱されている。

●小宮豊隆(こみや・とよか)

明治17(1884)年～昭和41(1966)年 福岡県生まれ、ドイツ文学者・文芸評論家。大正末から終戦ごろまで、東北帝大でドイツ文学の講座を持つ。漱石研究の第一人者でもあり、小宮が館長をつとめたゆかりで「漱石文庫」が同大図書館に取められた。

10 乃木希典旧宅跡

青葉区片平2丁目1-1(東北大学金属材料研究所)

徳富蘆花著『寄生木』に登場する人物のモデルとなった、乃木希典の旧宅があった。現在も乃木将軍の遺愛の松が残っている。



●徳富蘆花(とくとみ・ろか)

明治元(1868)年～昭和2(1927)年 熊本県生まれ、小説家。代表作に『不如帰』。『寄生木』は、乃木将軍の恩顧を受けた軍人青年、篠原良平の生涯を描いた作品。

11 米ヶ袋一丁目公園(魯迅の下宿跡)

青葉区米ヶ袋1丁目1-11

魯迅の下宿があった場所。その足跡を伝える公園として整備され、令和4年に開園。中国の詩人・郭沫若の筆による「魯迅故居跡」の石標が立つ。



●魯迅(ろじん/ルーシェン)

明治14(1881)年～昭和11(1936)年 中国紹興生まれ、小説家、思想家。明治37年から仙台医学専門学校に学ぶが、在籍中に文学を志し退学。帰国後『狂人日記』『阿Q正伝』などを発表し、「中国近代文学の父」と称される。



12 晩翠草堂

青葉区大町1丁目2-2 TEL.224-3548



土井晩翠が晩年を過ごした旧居。空襲で家を焼け出された晩翠のために昭和24年に教え子や市民が中心となって建てた。庭に晩翠の立像が行み、草堂の前には、「天地有情」の碑がある。

※開館日時はお問合せの上、ご来訪ください。



13 日本聖公会仙台基督教会

青葉区国分町2丁目13-15

山村暮鳥が伝道師として、明治42年から約10ヶ月間着任した。現在の建物は、東日本大震災の後で再建されたもの。

●山村暮鳥(やまむら・ぼちょう)

明治17(1884)年～大正13(1924)年 群馬県生まれ、詩人。明治42年に伝道師として来仙。布教活動をしながら詩人としての一步を踏み出す。また、童話作家としても活躍する。「いちめんのなのはな…」の詩が有名。



14 相馬黒光生家跡・尾形亀之助旧宅跡

青葉区立町



旧仙台藩の武家屋敷だったこの付近は木町末無と呼ばれ、明治の初めまでは相馬黒光の生家が、明治末年には詩人・尾形亀之助の夫家があった。

●相馬黒光(そうま・こっこう)

明治8(1875)年～昭和30(1955)年 仙台市生まれ、随筆家。宮城女学校を経て上京。結婚後、パン屋「中村屋」を開業。芸術家や外国の文化人を支援し、大正期の日本の文化活動に貢献した。

●尾形亀之助(おがた・かめのすけ)

明治33(1900)年～昭和17(1942)年 宮城県生まれ、詩人。東北学院に在学中から、短歌や絵画に関心をもち、やがて前衛芸術運動に加わる。その後詩作に専念し、「色ガラスの街」等の詩集を残した。



15 浜夢助川柳碑

青葉区桜ヶ岡公園(西公園)

雪国に生まれ
無口に馴らされる

●浜夢助(はま・ゆめすけ)

明治23(1890)年～昭和35(1960)年 仙台市生まれ、柳人。川柳誌『川柳北斗』『川柳宮城野』を主宰。宮城川柳界の草分け的存在。



白雲の行方を問はむ秋の空(次郎)

16 遠藤梧逸句碑

青葉区桜ヶ岡公園1-1(桜岡大神宮)

萩の花
古ぼれつぎつ、
水澄めり

●遠藤梧逸(えんどう・ごいつ)

明治26年(1893)年～平成元(1989)年 岩手県生まれ、俳人。高浜虚子に師事、『ホトトギス』の同人となる。昭和26年に俳誌『みちのく』を創刊主宰する。



17 魯迅顕彰碑と魯迅像・阿部次郎句碑

青葉区川内三の丸跡(仙台市博物館)



魯迅顕彰碑は昭和35年、日本と中国の相互理解の一步として、魯迅顕彰会が建立。「魯迅之碑」の碑名は郭沫若筆、レリーフは翁朝盛作。また平成13年には、生誕120周年を記念し、中国紹興市から魯迅の胸像が寄贈された。

阿部次郎句碑の裏面には『三太郎の日記』の一節が刻まれる。仙台市博物館には、浮世絵などの美術品を集めた、阿部次郎コレクションがある。

18 土井晩翠詩碑

青葉区荒巻川内(仙台城址)

晩翠の代表作「荒城の月」の詩碑。

春高樓の花の宴
めぐる盃かげさして
千代の松が枝わけいでし
むかしの光いまいづこ…



19 斎藤茂吉歌碑・木俣修歌碑

青葉区荒巻川内(東北大学川内萩ホール附近)

茂吉の歌碑は、昭和3年に阿部次郎の招きで東北帝国大学で講演し、阿部宅に宿泊した際に詠んだ歌が刻まれる。木俣の歌碑の作品は、在仙中に詠んだ歌をまとめた歌集「みちのく」からとられた。



わがこころ
和ぎつつもたり川の瀬の
音たえまなき
君が家に(茂吉)

篤かつら
あかくもみつるしろおとに
百舌は高なく
ゆふさりくれは(修)



●斎藤茂吉(さいとう・もきち)

明治15(1882)年～昭和28(1953)年 山形県生まれ、歌人。「アララギ」を主宰し、多くの弟子を育成する。歌集に「赤光」などがある。

●木俣修(きまた・おさむ)

明治39(1906)年～昭和58(1983)年 滋賀県生まれ、歌人。北原白秋に師事する。昭和6年、宮城県師範学校に赴任し、多くの学生たちに慕われた。

20 三太郎の小径

青葉区荒巻川内
(東北大学川内萩ホール附近)

阿部次郎は生前、散策しながら思索にふけた。現在は東北大学橋内の一角が吾書にちなんで「三太郎の小径」と呼ばれている。



21 木下杢太郎詩碑

青葉区星陵町2-1(東北大学医学部)

杢太郎晩年の自筆で刻まれている。東北大学医学部百十周年を記念して建てられた。



むかしの仲間も遠く去れば、
また日頃顔合わせねば、
知らぬ昔とかはるなき
はかなさよ…

●木下杢太郎(きのした・もくたろう)

明治18(1885)年～昭和20(1945)年 静岡県生まれ、医学者・詩人・劇作家。大正末から昭和初期まで、東北帝大で医学部教授をつとめた。また、詩・小説・戯曲から絵画まで、多彩な方面でその才能を発揮した。

22 キリスト教共同墓地

青葉区北山1丁目14-1(輪王寺)

押川方義、プゼル、布施淡など、仙台のキリスト教文化の基礎を築き、文学にゆかりのある人々の墓がある。



●押川方義(おしかわ・まさよし)

嘉永2(1850)年～昭和3(1928)年 愛媛県生まれ、教育者。明治13年来仙、東北学院・宮城女学校を創設。多くの学生達に慕われた。

●A・Sプゼル

慶応2(1866)年～昭和11(1936)年 アメリカ・マサチューセッツ州生まれ、教育者。明治25年、宮教師として来仙。現在の高瀬学院の初代校長をつとめ、教育活動に生涯を捧げた。

●布施淡(ふせ・あわし)

明治6(1873)年～明治34(1901)年 宮城県生まれ、画家。母校・東北学院で美術の教師をつとめ、同僚となった島崎藤村と親しく交わる。藤村の作品にも、その名がしばしば登場する。

23 高山樗牛「瞑想の松」・土井晩翠歌碑

青葉区小松島4丁目4-1(東北医科薬科大学)



いくたびか

こゝに真昼の夢見たる
高山樗牛冥想の松

旧制二高に在学中の若き高山樗牛が、この松の下で思索にふけったというエピソードにちなんで、「瞑想の松」と呼ばれる。松のそばには晩翠の歌碑が建立されている。

●高山樗牛(たかやま・ちよぎゅう)

明治4(1871)～明治35(1902)年山形県生まれ、評論家。旧制二高を卒業後、東京帝大に進み、在学中に小説「瀧口入道」を発表し評判になる。時代をリードする評論家として活躍した。



24 天江富弥詩碑・スズキヘキ詩碑・野口雨情詩碑

太白区向山3丁目18(向山中央公園)



天江富弥詩碑「のんのさんのポッポ」

のんのさんのポッポは
まあいメンメ
お豆をたべるから
まるいのね
ポッポポッポ
ポッポーサン…
(富弥)

赤い花さいた
いい花さいた
てれてれ
おてんとさん
いい唄うたほ
いっしょに歌ほ
てれてれ
おてんとさん
(雨情)

25 阿部みどり女句碑

太白区茂ヶ崎2丁目1



重陽の夕焼けに逢ふ幾たりか

●阿部みどり女(あべ・みどりじょ)

明治19(1886)年～昭和55(1980)年 北海道生まれ、俳人。高浜虚子に師事し、大正期女流俳人の卓分付的存在となる。昭和7年『駒草』を創刊主宰。句集に『月下美人』などがある。



スズキヘキ詩碑「オ TENT サン アリガトウ」

スズメ ト スズメ
スズメ ト スズメ ト
ウタッテル
チョウチョ ト チョウチョ
チョウチョ ト チョウチョト
オドッテル…
(ヘキ)



野口雨情詩碑「おてんとさんの唄」

●野口雨情
(のぐち・うじょう)

明治15(1882)年～昭和20(1945)年 茨城県生まれ、詩人。北原白秋や西条八十らと共に童謡詩人として名を馳せる。富弥やヘキと深い交友を持ち、『おてんとさん』の活動を応援した。「十五夜お月さん」や「赤い靴」などの作詞で知られる。

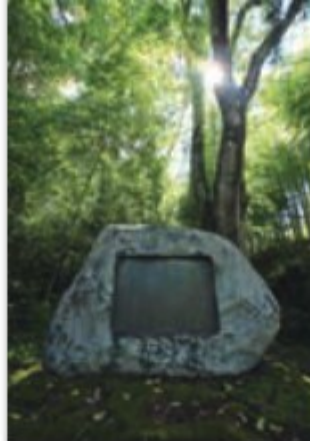
26 原阿佐緒歌碑

太白区茂ヶ崎3丁目11

家ごとにすもも花咲く
みちのくの春べをこもり
病みて久しも

●原阿佐緒(はら・あさお)

明治21(1888)年～昭和44(1969)年 宮城県生まれ、歌人。与謝野晶子に認められ、歌人として活躍する。大和町宮床に、その生家が記念館として残っている。



27 スズキヘキ詩碑

太白区茂ヶ崎2丁目1(野草園内)



石のテーブルの側面に、詩がぎざまれている。

コガラシコボウズ
ハセテイル
ドンドンオヤマヲ
ハセテイル…

28 真山青果文学碑

若林区南小泉1丁目1(ふるさと広場)

真山青果の戯曲「頼山陽」の一部が刻まれている。

羽虫は 何故かは
知らんだらう
それでも 飛ばずに
ゐられないのだよ

●真山青果(まやま・せいか)

明治11(1878)年～昭和23(1948)年 仙台市生まれ、小説家・劇作家。明治40年に小説「南小泉村」で一躍脚光を浴びる。「元禄忠臣蔵」などの戯曲も残している。



29 夏目漱石文学碑

青葉区茂庭字綱木裏山4(大梅寺)

大梅寺の名が登場する、夏目漱石「草枕」の中の一部が刻まれている。

●夏目漱石 (なつめ・そうせき)

慶応3(1867)年～大正5(1916)年 東京都生まれ、小説家。「吾輩は猫である」「坊っちゃん」など数々の名作を残した、日本を代表する文豪。明治27年には松島の瑞巖寺に詣でている。



「泰安さんはその後発憤して
陸前の大梅寺へ行って修行三昧ぢや。
今に智識になられやう。結構なことよ」…

30 土井晩翠歌碑

太白区東中田1丁目9(下古川公園)

歌枕として知られる名取川を詠んだ歌が刻まれている。仙台市中田第二土地区画整理組合が、名取川南岸の土地区画整備の完成を記念し、平成9年に建立した。



古来の歌と歴史とを
その名に薫る名取川
大海原をめざしつつ
しばしもやまず流れ行く

仙台市中心部マップ!!

中心部へは『るーぷる仙台』で

のルートが『るーぷる仙台』のコースです。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 仙台駅前 | 9 理学部自然史標本館前 |
| 2 青葉通一番町駅 | 10 国際センター駅・宮城県美術館前 |
| 3 晩翠草堂前 | 11 交通公園・三居沢水力発電所前 |
| 4 瑞鳳殿前 | 12 大崎八幡宮前 |
| 5 博物館・国際センター前 | 13 メディアテーク前 |
| 6 仙台北城跡 | 14 定禅寺通市役所前 |
| 7 青葉山植物園西 | 15 広瀬通駅 |
| 8 青葉山駅 | |



